

<第1号議案> 2016年度(2016年4月1日~2017年3月31日)

特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき 活動報告

■2016年度を振り返って

2016年度は第5期中期計画(2016~2018)のスタートの年でした。中期目標は次の3つです。

- (1) 「ぐらす・かわさき」らしい、持続可能な地域の居場所・活動拠点をつくりあげる
- (2) コミュニティビジネス支援のノウハウを拡充し、様々な中間支援組織との連携を推進する
- (3) 子育てしやすい社会に向け、子どもをめぐる地域の繋がりへの促進に寄与する

○目標(1)について

食と農の地域交流拠点「メサ・グランデ」は開設から丸5年が経過しました。今年度より、在宅障がい者の「地域活動支援センター」という機能も加わり、障がいがあってもなくても地域と繋がることのできる「居場所」として取り組みました。1年のうちに地域活動支援センターの利用者も増え、みんなで一緒に作って食べるまかないを中心に活動してきました。地域活動支援センター運営のため、新スタッフを起用しながら既存のスタッフと協力しあって継続的な運営を行ってきましたが、体制作りが上手くいかず、年度末には複数スタッフが離職したうえ新規採用が進まない中、次年度への繰り越しとなり、今後の改善が急務となりました。地域とのつながりの要の一つでもある地元農家から仕入れる野菜の売り上げは下降したものの、カフェとしての地域住民の利用は安定しており、「めさみーる+」のような地域食堂としての取り組みも浸透し、地域の居場所として新城のまちに根差してきました。

「遊友ひろば」は、登戸区画整理事業の進展を待ちながら、ボランティアによる運営委員会体制で無事3年目を終えることができました。賃貸物件の更新(2016年5月)も無事乗り越え、地域に愛される場として2017年度も運営を続けるための一つのハードルを越えました。

○目標(2)について

川崎市コミュニティビジネス振興事業のほか、かながわコミュニティカレッジでの連続講座も企画運営したり、他の中間支援組織が運営する講座の運営や講師として登壇するなどの協力連携を積極的に行いました。

○目標(3)について

地域子育て支援センター「おおと」では、新規のスタッフによる運営に切り替わりましたが、地元のスタッフが主体的にかかわる形となり、無事5年目の運営を行う事ができました。川崎市教育委員会から新たに受託を開始した「柘形中学校 地域の寺子屋」は、事業を進めていく中でスタッフ体制が充実していき、内容的にもさまざまな試行錯誤を重ね、無事1年目を終えました。

財政的には今年度も赤字運営となり、今後の事業の継続のためにさらなる工夫が必要です。

2016年度の会員数

	正会員個人	正会員団体	賛助会員	合計
2015年度末	116名	7団体	17名	140名
2016年度末	100名	8団体	18名	126名

※個人会員の入会が9名、脱退が25名、団体会員の入会が2団体、脱退が1団体、賛助会員の入会が1名合計で14名減となりました。

■2016 年度事業内容

(1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施 (定款第5条(1))

収入：714,220円(予算460,000円) 支出：542,906円(予算460,000円)

①さまざまなグループへの参加と応援 (担当理事：江田)

○市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援しました。

- ・「多摩丘陵緑地保全ネットワーク (通称たまよこネット)」会員として参加 (江田)
- ・「教育に憲法を生かす川崎市民の会」会員として参加 (江田)
- ・「地域通貨たま運営委員会」事務局として参加 (江田)
- ・「たちばな農のあるまちづくり推進会議」副委員長・監事として参加 (田代・吉田)
- ・「一般財団かわさき市民しきん」代表理事・理事として参加 (広岡・江田)
- ・「NPO 法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加 (田代)
- ・「公益法人かながわ生き生き市民基金」評議員として参加 (江田)

※「たちばな農のあるまちづくり推進会議」からは、さんの市コーディネートと直売所マップ作りを受託しました。

○次の団体に団体会員として登録し、主に広報協力、情報交換などを行いました。

「川崎 NPO 法人連絡会」「NPO 法人フリースペースたまりば」「NPO 法人ワーカーズコレクティブ協会」「NPO 法人アクションポート横浜」「NPO 法人まちづくり情報センター神奈川(アリスセンター)」

「NPO 法人たすけあい多摩」「川崎商工会議所」「登戸東通商店会」「新城南口商店会」

○次の団体に賛助会員として登録し、協力しました。

「一般財団法人かわさき市民しきん」

○次の団体に協力団体として参加しました。

「福島の子どもたちとともに、川崎市民の会」

■**成果/課題**：ぐらす・かわさきの設立母体だった団体のつながりから続いている団体や、ぐらす・かわさきの活動から別組織化した団体、ぐらす・かわさきのミッションにあったグループへの参加(無償での参加)を通して、連携・ネットワークづくりにおいて成果がありました。

(2) コミュニティビジネス (CB) を支援するための事業の企画・実施 (定款第5条(2))

①メサ・グランデ CB 事業 (担当理事：竹林・田代、スタッフ：田代・岩渕・吉田)

収入：913,300円(予算1,200,000円)・支出：1,414,180円(予算1,200,000円)

メサ・グランデのスペースを土日を中心に有効活用し、開設時以来取り組んできたワンデイシェフや貸しキッチン・貸しスペース事業を通じて、コミュニティビジネスの創業や継続の支援を行いました。「川崎市認定創業支援事業」に位置付けられているので、他の中間支援組織らと連携し、起業講座・交流会の会場としての利用を促進しました。また、昨年度に引き続き、「日本政策金融公庫さんとの連携で、「caféの学校 in かわさき」を開催しました。

○コミュニティビジネス支援を目的とした主な利用実績

- ・ボードゲームカフェ (わくらボ主催) 50回開催
- ・「まちづくりカフェ」(市民と行政の有志主催) 1回開催
- ・コミュニティビジネスに関する講座等への場の提供

「S B / C B 体験ツアー」(日本政策金融公庫と共催)

6月8日・15日・22日の全3回 参加者 4名

「caféの学校 in かわさき」(日本政策金融公庫と共催)

7月6日～8月3日の全7回(ワンデイシェフ実習2回含む) 参加者 23名

「コミュニティカフェ開設講座」全6回×2クール(長寿社会文化協会主催に協力)

各クールの1回目に会場提供(6月25日・11月19日) 参加者12名

・「大宴」(主催) 6回開催 延べ107名参加(1回平均17.8名) ※売上はカフェ事業に

■**成果/課題**：主にコミュニティカフェなどを起業したい方や地域交流の場として活用していただき、実験的事業ができる場所として、立ち上げ期の後押し役を担っています。「ボードゲームカフェ」は認知が進んできて参加者数も安定的になり、若い層がメサ・グランデを知るきっかけにもなっています。起業系の講座の会場として使ってもらうことで、ワンデイシェフ事業を知ってもらったり、相談事業に繋がるきっかけとなっています。「めさみーる」に触発されたグループが生まれ、「てらこみーる」運営委員会として、寺子屋+食事の実験的展開を2月からスタートしました。

一方、対応するマンパワーが乏しく、年度後半は広報活動を控えてきたので、稼働していない日が増えてきました。土日に対応できる体制に立て直し、次年度は売り上げ確保に注力する必要があります。

②川崎市コミュニティビジネス振興事業(担当理事：竹林・田代 スタッフ：田代・広岡・吉田・大澤)

収入：3,985,884円(予算3,900,000円)・支出：3,985,884円(予算3,900,000円)

川崎市の委託事業。市民のコミュニティビジネスやソーシャルビジネスに対する関心を高め、それらに就業・創業したい人や、すでにそれらの事業を行っている事業者への支援等を通して、市域でのコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの振興を図ることが目的。2016年度は、川崎市内におけるコミュニティビジネスに関する実態調査と、メサ・グランデに起業相談窓口を設置し、相談対応と連続起業講座を開催しました。

○相談対応

- ・対応数：延べ90回(去年は91回)
- ・相談内容：起業31件、情報収集29件、スペース活用16件、継続発展11件、連携3件、
- ・成果：就業2件、起業4件、法人化1件

○連続講座「地域や社会に貢献できるしごとのはじめ方セミナー」

- ・主講師：中小企業診断士 竹林晋さん
- ・期間：7月23日～9月24日の全8回
- ・会場：川崎市産業振興会館12階会議室
- ・登録者：14名、参加者12名

○市内コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス実態調査

川崎市内の対象事業者に、アンケート(有効回答数226)とヒアリングを行い、報告書を作成。

■**成果/課題**：連続講座修了生を相談へと誘導、相談者を連続講座に誘導という流れがここ数年続いており、単年度では結果の出しにくい事業だが、連続して受託を継続できていることから、徐々に成果を上げてきています。今年度は特に市内コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの実態を把握し、今後の施策につなげるための調査を行ったことから、次年度以降の川崎市のコミュニティビジネス・ソーシャルビジネス振興施策の充実に貢献できました。相談対応できる人材の育成が課題です。

(3) 子育てを支援する場所の運営及び関連事業の企画・実施 (定款第5条(3))

①川崎市地域子育て支援センター「おおと」(担当理事：池畠、スタッフ：本江・上村・堀・藤崎)

収入：1,917,771円(予算1,917,000円)・支出：1,917,771円(予算1,917,000円)

川崎市の委託を受け、大戸こども文化センター内で、週3日午前中、未就園児とその保護者向けのサロン事業「おおと」を実施しました。今年度は、地域住民である新規スタッフによる運営の初年度となり、地域に根差したサロン、当事者のお母さんたちが主体的な関わり方ができるような支援を心がけて運営を行いました。

・実施日数：155日、利用人数：4,666人(大人2,197人、子ども2,469人) 1日平均30人

■成果/課題：「地域子育て支援センターおおと」として、5年目の実施となりました。今年度より新規のスタッフによる運営に変更されましたが、利用者が安心して過ごせる環境づくりに努め、同じ悩みを持つ親子が交流し、地域での暮らしの情報を共有する場づくりを行いました。また、スタッフより提案があり、新丸子こども文化センター内での地域子育て支援センターにも応募し、次年度より2カ所運営することとなりました。

②川崎市教育委員会「地域の寺子屋事業」(柘形中学校)(担当理事：池上・葉袋 スタッフ：池上・前川武範・池田・秋山和久・小澤・本所武蔵・山田楓子・中村百花・吉田美穂子・早瀬・金谷・前川篤志・渋谷・谷口・吉越・椎名・大月)

収入：1,017,060円(予算997,000円)・支出：1,017,060円(予算997,000円)

参加延べ人数：柘中生…975名(1年生：529名 2年生：283名 3年生：163名)

5月下旬～6月上旬(前期中間テスト前)

7月下旬(夏休み)、8月下旬～9月中旬(前期期末テスト前・後)

10月末～12月頭(川崎市診断テスト前～後期中間テスト前)

1月上旬～2月下旬(入試直前～後期期末テスト前)

○学び合い学習会(実技系教科も含め全教科対応。登録不要・参加費無料)：126回

・柘形中学校内(おもに3階多目的室。日によって3階学習室、理科室)22回

おもに部活動停止期間中(定期テスト3～5日前より)の放課後2～4時間程度

・児童館「すかいきっず」内(登戸2249-1KFJ多摩4階)103回、遊友ひろば1回

おもに定期テスト前の2週間(おもに月～金18:30～20:30)

学校のワークや塾の宿題など各自が取り組みたい課題を持参し、おもに定期テストや夏休みの課題提出に向けて学びました。地域の大人や大学生のスタッフが、各自の目標設定や勉強方法などの相談に乗り、進捗状況の見守り、子どもたち同士の学び合い・助け合い促進、質問対応などで支援しました。夏休みに事前申込制にしてみたところ、申し込みそびれにより参加人数が減少したので、以後は申込不要にし、徹底して気軽に参加できる場としました。

○体験活動・世代間交流(お楽しみ会)：定期テスト最終日に年4回

メサ・グランデ1回、すかいきっず3回

いずれも定期テスト最終日の夜で、子どもたちの要望を参考にテーブルゲームの会を開催。

■成果/課題：当初想定していなかった「児童館」での開講が年度初めの交渉で実現し、受け入れの幅が一気に広がりました。スタッフも、現在メインで活動しているメンバーが年度の初めや途中で新たに加わり、スタッフ体制が少しずつ充実してきています。さまざまな家庭環境の子どもが入

り交じり、賑わいと学習が混在する場を、さまざまな工夫で気持ちよく運営していくことは永遠の課題となりそうです。

(4) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施 (定款第5条(4))

①地域活動支援センター メサ・グランデ事業

(担当理事：田代・小林、スタッフ：岩淵、前田、吉田、新堀、青木、清水)

収入：22,614,092 円 (内補助金 13,100,000 円、売上 9,236,936 円、その他 277,156 円)

(予算 22,600,000 円 内訳:補助金 13,100,000 円 売上 9,500,000 円)

※売上内訳：八百屋：3,923,830 円・飲食等：5,313,106 円

支出：22,614,092 円 (予算 22,600,000 円)

メサ・グランデ設立から5年目の大きな変革として、地域活動支援センターとして川崎市から承認され、補助金を得て障がいのある人の日中活動を支援する場としてのコミュニティカフェに生まれ変わりました。コミュニティカフェとしてこれまでの方向性も維持しながら、地域活動支援センターとしての場所づくりを模索してきました。活動の中心となってきたのは、大きなキッチンを利用しての、10時の開所時間から昼過ぎまでの賄いづくりです。一年間、毎日利用者さんとともに、昼ごはんを作ってきました。カフェと八百屋で使い切れなかった食材を活用してフードロスの改善に貢献しながら、コミュニケーションの機会提供と社会性の醸成を得られる活動として、調理のみならず、献立、買い物、分量の算出、下拵え、盛り付け、洗い物など、賄いづくりのプロセスにおいてスタッフと利用者が役割分担しながら交流しています。カフェの掃除やドリンクづくり、下ごしらえ、野菜の販売など、しごと部分にも参加する利用者さんも生き生きと活動しています。

地域活動支援センターは、障がいをお持ちの方たちにとって社会へ踏み出す一歩を提供する場所でもあることから、ゆったりと過ごしたい方は、趣味を楽しんでもらったりしています。そのなかから、手芸品やアートカードなど、手作り品も制作され、店頭でも販売しています。

大学生や社会人インターン、ボランティアも幅広く受け入れをしてきました。企業の社会貢献活動の一環として、社員さんの受け入れをした企業から、活動終了後に月に1~2回、継続して社員用のお弁当の注文をいただくようになりました。また、川崎市内の他の地域活動支援センターで製造している焼き菓子をメサ・グランデで販売するようになるなど、新たなつながりが広がっています。昨年に引き続き、パルシステム神奈川ゆめコープさんから「縁農」プログラムに助成金をいただきました。

また、「めさみーる+」と題し、地域食堂を毎月1回第3木曜日に開催し、ぐらす・かわさきの会員やコミュニティビジネス講座の修了生ら地域のボランティアさんの協力、寄付食材を得て、毎回70~100名ほどの参加者にカレーを提供する取り組みを継続して行いました。

■**成果/課題**メサ・グランデはD型の地域活動支援センターで、利用者定員5名ですが、初年度年間平均利用者は5.3人となりました。前半は利用者の獲得に苦労したものの、徐々に登録が増え、年度末の方では定員を超過しすぎる事態になり、調整も今後必要となっています。

生産的活動として行っている野菜の販売は、昨年比92%・一昨年比70.5%となっており、減少傾向で推移していることが課題です。飲食に関しては昨年比116%・一昨年比81%となっており、昨年よりは回復していますが、ピーク時からはまだ大きく減の状態です。

スタッフ体制がまだ安定せず、メサ・グランデらしい地域活動支援センターのあり方に到達するまで更なる地固めの必要があります。

②遊友ひろば事業（担当理事：池上・町田）

収入：3,335,820円（予算3,390,000円）・支出：3,417,772円（予算3,390,000円）

様々な運営努力により、2016年5月の賃貸物件更新を無事乗り越えることができました。幅広い世代の住民の交流を促進し、周辺地域のコミュニティを活性化するため、ひろば運営に関心のある有志で運営委員会を設け、以下のような事業を行いました。

○地域住民等への活動場所の提供 担当ボランティア：池上・茂呂・秋山恵理子

- ・キッチン付き貸スペース…1時間1,200円（うち200円まで使用可）。新規利用者が2時間以上利用する場合は初回1時間無料特典を実施。
- ・荷物保管用引出し等（1カ月500円）
- ・手紙の受け取り場所としてのレターボックス（1カ月300円）
- ・壁面掲示・チラシラック等を活用した情報提供（地域の市民活動・行政等の情報）
- ・前年度まで月額2万円で活動場所としてお借りいただいていた登戸東通り商店会は時間貸しに変更となり、固定収入が減少しました。
- ・定期利用はやや減少傾向ですが、近隣マンション管理組合の会議やパーティ利用などで裾野は少しずつ広がっています。

○健康麻雀 担当ボランティア：瀬川・町田・長谷川・盛澤ほか

主に年配者が麻雀を通して地域の人と交流をし、自然に頭や指先を使うことで、心身の健康の促進を図るためのプログラムです。

- ・初級者サロン…火曜13時～17時。1回1200円（500円まで使用可）。和気あいあいと楽しく、「生きがい」と感じている方もおり、休みにすると寂しいと参加者が自主開催することもあります。新しい参加者も多く大変人気があり、5卓になることもしばしばありました。
- ・健康麻雀サロン…金曜10時～15時。1回1500円（500円まで使用可）。勝負に集中するあまりの殺伐とした雰囲気は解消方向にありますが、2016年度はご家族やご本人が体調を崩されて休まれる方が増え、3卓のことも時々ありました。ただ、新しい参加者が加わったり、自主開催・交流会が開催されたのは良かったです。

○親子ひろば 担当ボランティア：粕谷・秋山・山崎・根本

おもに0～1歳の子どもと育休中の母親が利用しており、知り合うきっかけの場になっています。利用者の希望に基づき多彩な講座等イベントを実施（別途イベント参加費が必要）しており、地域の人材をその講師として起用し、講師デビューの場にもなっています。

- ・水曜10時半～14時。参加費300円。100円まで使用可

○土井さんのオーガニック料理教室（←昨年度より名称変更）

講師：土井由美子さん（ぐらす・かわさき会員）

担当ボランティア：町田・宮下

季節料理、行事をとりいれつつ「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）、暮らす土地の旬のものを食べること（身土不二）」を基本とし、体調に合わせた料理をつくるコツを学ぶプログラムです。20～60代と幅広い世代が参加しています。先生のご都合で1月から教室という形での開催を見合わせ、可能な範囲で自然食のレストランを訪れています。

- ・利用料1回2,500円（1回につき100円まで使用可）。

○寺子屋 担当ボランティア：小野・川口・佐藤・高崎・徳田・町田

講師…地域のボランティア

小学4年生から中学生に学びの楽しさを伝え、学習できる居場所を提供するプログラムです。小学生は、低学年からの要望があり1年生からも受け入れました。多かった中学3年生が受験を理由にやめてしまいましたが、残った二人は希望の公立高校に合格できました。7月から助成金を受けの軽食サービスは、学校から帰っても親が不在などの理由で子どもたち・保護者に好評でした。食事を作ってくださいるヘルスマイトさんからの塩分や野菜についての話も勉強になりました。寺子屋の情報を経済事情が厳しい家庭にいかにつけるかが課題です。

・教科…算数・数学・英語。月曜日開催。1時間 500円。

○学習会・講座の企画・運営 担当ボランティア：町田

暮らしの中の疑問、環境・人権・平和問題等について学び合う場を設け、地域での交流を図ったり、企画、運営してみたい方を募り、一緒に企画を作る予定でしたが、学習会は開催できませんでした。

■**成果/課題**：運営ボランティアに新たなメンバーが加わり、前年度に比べて運営体制が充実しました。2020年頃の区画整理終了まで3年ほど猶予があるため、今後の展開を見ながら利用者を含めた方針決定・意思統一を図っていきます。

(5) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）

（担当理事：江田・広岡 担当スタッフ：田代・広岡・吉田）

収入：799,212円（予算700,000円）・支出：621,316円（予算700,000円）

① 広報

人員体制が厳しい中、ぐらすレターの発行を年3回とし、ホームページやフェイスブックページの活用を進めました。ぐらすレターの郵送分も、メーリングリストでの配信に少しずつ切り替えており、郵送費用の縮小を進めました。

② 講座開催・講師派遣

自主企画としては、ぐらす・かわさき設立以来毎年開催してきた「川崎市予算学習会」をはじめ、今年度新規に「かながわコミュニティカレッジ」で「空き家を活かそう！まちの交流拠点をデザインする」と題した連続講座の企画運営を行いました。

また他団体等からの依頼に応じ、スタッフを講師として派遣し、コミュニティビジネスや市民活動を支援しました。

【自主企画】

- ・「災害時ピクトグラムを知って熊本に寄り添おう！」（KSファームと共催）（7月16日）

講師：主婦連合会 参加者 30名

- ・「空き家を活かそう！まちの交流拠点をデザインする」（かながわコミュニティカレッジ）

（10月5日～11月30日）全8回 参加者 30名

- ・「川崎市予算学習会」（3月4日）講師：三浦淳さん 参加者：23名

【講師派遣】

- ・「ソーシャルビジネス in あつぎ」（田代）
- ・「環境リーダー養成講座」（アクト川崎）（吉田）
- ・「KS ソーシャルアカデミー 市民ビジネスリレー講座」（専修大学）（田代）
- ・「コミュニティカフェ開設講座」（長寿社会文化協会）（田代 4日間）

- ・「食の課題 地域で解決！居場所づくり」（パルシステム連合福祉推進員会拡大学習会）（田代）
- ・「食品ロスを地域で活かそう」（セカンドリーグ神奈川）（田代 2日間）
- ・「座間市協働についての市民説明会 基調講演」（座間市）（広岡）
- ・「コミュニティビジネスを始めるために必要なこと」（幸市民館）（田代）
- ・「食がつなぐ人・地域・暮らし」（全国老人給食協会主催）（田代）
- ・「ふきのとう学習会」（社会福祉法人ふきのとうの会）（田代）
- ・「担い手の人材確保のノウハウ 事例検討会」（神奈川居住支援協議会団地再生部会）（田代）
- ・「カフェ Mr.さくらが丘 大人の居場所をさがす・つくる」（大和市）（田代）
- ・「コミュニティカフェ全国交流会」（長寿社会文化協会主催）（田代）
- ・「山梨県配食サービス従事者養成研修会」（田代）
- ・「川崎医療生協組合員大学学習会 今、求められる居場所づくり」（川崎医療生協）（田代）

③ 行政などに関わる委員会への参加

神奈川県住宅政策懇話会（田代）神奈川県住生活基本計画の見直し

国分寺市協働事業審査会（田代）

■**成果/課題**：会員向けのぐらすレターの郵送数はさらに縮小できると思われるので、会員に再度、WEB への移行を進めていきます。講師活動は今年かなり拡大しましたが、少し情報内容を整理して、パッケージ化することも必要な時期にきています。行政などに関わる委員会への参加は、政策提言への直接的な場でもあるので、今後も積極的に参加していく必要があります。今年行う予定だった「コミュニティカフェガイドブック神奈川版」の改訂版作成は業務多忙につき、完成に至らず、次年度に持ち越しとなりました。